

《今朝の聖書から》『ルカによる福音書』23:35~43には、二つの対象的な“キリストの理解”が描かれています。二人の人として記録されていますが、実はそれは私たちの心の内にもある、思いをも示しています。“キリストを信じたって何にもならない”、“お祈りして、満腹になるというならいくらでもしますよ”と言う人と、あるいは人の心と、41節で“お互は自分のやった事のむくいを受けているのだから、こうなったのは当然だ。しかし、このかたは何も悪いことをしたのではない”と言わせる心です。そして、私たちはキリストを知らなかったとき、当然“キリストなど知らない”と言いましたし、そのほうが簡単な生き方かもしれません。何故なら“イエス様は救い主である”という、救いの言葉の内に留まらなくてもよいからです。42節で“イエスよ、あなたが御国の権威をもっておいでになる時には、わたしを思い出してください”と告白している悪人がいます。この悪人は、後悔と悔い改めることをしています。そしてキリストに救いの希望を見出しているのです。聖書には記録されていませんが、イエス様のことをののしった方の方は、“あんなへまをどうしてしてしまったのか”という後悔は、おそらくしたことでしょうが、このような生き方はここで終わっているのです。30節に“イエスに悪口を言い続けた”とありますが、教会はこのような生き方を繰り返す世界とは関係がなく、“キリストと共にいる”という言葉で満ちているのです。使徒行伝7:60に“そして、ひざまずいて、大声で叫んだ、「主よ、どうぞ、この罪を彼らに負わせないで下さい」。こう言って、彼は眠りについた”とステパノの最後を書いています。イエス様のとりなしの祈りも、クリスチャン全体の祈りを代表しているのです。“イエス様と共に”と書きましたがこの言葉はルカにとっても特別に大切な言葉で、“今日（今から）パラダイスにいる”という意味を込めています。死んだ後、天国に行くだろう、ということを示している以上のものです。エデンの園から、神の国まで、教会は“荒野の誘惑”と同じ、“自分を救ってみよ、どんなふうにも救われたと言うのか！”という言葉に取り囲まれているのです。

週報

2006年 11月 26日



主の業に励もう コリント15:58

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル商会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎0543-45-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸